

ふすま同窓会 海外チャレンジ支援プログラム報告書

山形大学人文学部人間文化学科 3年 芦生のぞみ

1, 今回の海外研修先と日程

研修先

タイ(バンコク、アユタヤ、チェンマイ、スコータイ)

日程

3月10日～3月21日(3月10日～11日午前：飛行機移動、ノイバイ国際空港経由)

3月20日午後～21日：飛行機移動、ノイバイ国際空港経由)

2, 今回の研修について地域ごとの報告

今回のタイ研修を、①バンコク(五日間)、②アユタヤ(二日間)、③チェンマイ(一日半)、④スコータイ(一日半))に分け、報告する。

① バンコク前半

バンコク前半は、博物館や王朝周辺を見て歩いた。特に興味深かったのが、国立博物館であった。私が行った日はちょうど良く日本人ボランティアの博物館ガイドさんがいて、展示物の詳しい説明を受けることができた。その中でも、王族の実際の葬儀の際に使われるゴンドラや輪廻を表すモチーフの車輪など多くの展示物を実際に見ることができた。またここで、私は全くタイ語がわからなかったため、ガイドさんたちに行かないほうが安全な地域やおすすめの場所を聞いたところ、当初予定していたウボン・ラーチャターニー方面は、今カンボジアとの関係が悪く治安が良くないため、予定を変更しチェンマイに行くこととした。

ワット・プラケオでは、歴史的というよりは観光地として整備されているという印象を受けた。その中でも本堂はエメラルド仏がいて壁一面装飾が施されており、厳かで幻想的であったが、観光客でごった返しており、マナーのなっていない客と警備員との口論で、世界観に入り込めなかった。

② アユタヤ

アユタヤへはバンコクの戦勝記念塔からマイクロバスに乗合をし、約3時間で到着をした。ゲストハウスにチェックインして、そこで自転車を借りて遺跡や街をまわった。アユタヤの遺跡は破壊されているものが多く、破壊されているからこそ私は歴史を感じた。破壊された中にかろうじて原型を残している仏像は、破壊の歴史を見てきたわけである。そう考えると一言では言えないが、今まで生きてきた中で一番感動した風景であった。また、エレファントキャンプでゾウに乗って遺跡巡りができる体験に参加した。高い位置から見るアユタヤは、立ってみる視点とは異なった美しさであり、今でさえ美しいアユタヤが完全体である時代はもっと美しかったのだろうと想像させた。

③ チェンマイ

チェンマイは行く予定がなかったため、日本ではチェンマイのことを全く調べずに行った。そのため観光地はあまり行くことができなかったため、チェンマイ中心部をメインに歩いた。チェンマイ中心部は日本で言うお堀のようなものがあり、城壁の名残も見えた。昼

間は人通りが少なく、不安になるくらいであったが、夜になると露天が多く開き、一気に歩くことが困難なほどに混雑する。その一角で多くの子供たちが踊ったり歌を歌ったり路上パフォーマンスをしていた。日本では滅多に見られない光景であった。チェンマイはタイ北部の最大の都市といわれているが、まだ貧困は残っていて生きるためにみんな頑張っているためのお金を稼いでおり、自分が時間とお金を使って旅行をしていていいものなのか少し考えてしまった。

④ スコータイ

スコータイは遺跡がアユタヤとは異なり、穏やかな雰囲気漂っていた。スコータイ歴史公園内で使えるレンタサイクルを使って移動したが、車も観光客も少なくゆっくりまわることができた。レンガ造りの遺跡が多く現在まで残っている遺跡が多いらしい。

またスコータイでは、タイ人の旦那さんと日本人の奥さんが経営するゲストハウスに宿泊した。そのゲストハウスでは、ベルギー人の女性も住んでおり、少し会話したのだが、自分の英語力のなさを実感した。

3. まとめ

今回旅をして気づいたことは、人間は人とのつながりの中でしか生きられないということである。私は全くタイ語を話すこともできず、英語も苦手意識がある。そんな中で海外に行き、たどたどしい英語やタイ語の本、地球の歩き方を使って、アメリカから旅行に来たカップルやゲストハウスのご主人さん、バスの隣に座った人たちと話をした。タイ語を教えてもらったり、日本語を教えたり、美味しいご飯屋さんを教えてもらったり、小さな出来事だが、日本では気づくことのできなかつた体験だと思う。私が無事に帰ってくることもできたのも、タイで関わった全ての人たちのおかげである。ひとりひとりにありがとうと言いたい。

また、文化の多くの点で日本とは異なる点が見られた。私の専門はアジア史なのでその文化の違いにも今後興味を持って調べ、卒業論文にも生かしていきたい。

以上が私のタイ研修の報告である。

アユタヤにて仏像の頭部と



スコータイ遺跡



チェンマイの踊り子

